

■ちーびし

○執筆者紹介

①生年・出身地, ②所属, ③専門領域, ④研究業績, ⑤奄美と関係した活動の順番で掲載しております。

■菅沼 俊彦 (すがぬま としひこ)

- ① 1947年・京都市
- ② 農学部生物資源化学科生命機能科学講座 教授
- ③ 応用糖質化学, 食品工学
- ④ [携わった主な開発型研究]
 1. サツマイモ澱粉粕の酵素処理による食品新素材の創製 (平成12年度～14年度文科省科研費基盤研究C2)
 2. 澱粉・澱粉粕の新素材化技術開発 (平成9年度～11年度科技厅地域先端研究「地域糖質資源の高機能化と環境調和型利用システムの基盤研究」檜作進オーガナイザー)
 3. クエン酸澱の耐酸性アミラーゼと可食性マイクロカプセル製造 (平成10年度～11年度文科省科研費基盤研究C2)
 4. 酵素等によるでん粉粕廃棄物の有効利用技術 (平成8年～12年度農水省地域先端技術共同研究開発促進事業)
 5. サツマイモ搾汁液の有効利用に関する研究 (平成3, 4年度 鹿児島県経済連との共同研究)
 6. 芋焼酎蒸留廃液の物理・化学的性質と固液分離に関する要因 (昭和60年～平成元年度 鹿児島県工業技術センターとの共同研究)
- ⑤ 鹿児島県立大島高校出前講義平成14年度

■矢田 俊文 (やだ としふみ)

- ① 1941年・新潟県
- ② 九州大学名誉教授, 北九州市立大学学長
- ③ 経済地理学 (経済地理学会会長), 国土政策 (国土審議会委員)

- ④ 『地域構造論の軌跡と展望』 (編著 2005年)
『現代経済地理学』 (共編著 2000年)
『21世紀の国土構造と国土政策』 (1999年)
『国土政策と地域政策』 (1996年)

■山門 健一 (やまかど けんいち)

- ① 1940年・三重県熊野市
- ② 沖縄大学法経学部 教授
- ③ 経済学, まちづくり
『観光コースでない沖縄』 (共著, 高文研), 『香りのまちづくりの具体化に関する研究』 (共著, 沖縄大学地域研究所, 平成9年), 『亜熱帯資源を活用した複合産業の創出可能性調査報告書 I・II』 (共著, (財)南西地域活性化センター, 平成11年, 12年) 『沖縄型エコツーリズムの試み』 (共著, 対米請求権事業協会, 平成12年) その他。
- ⑤ 20数年前奄美振興計画見直し作業に関わったことがある。また沖縄大学移動市民大学, 奄美群島広域事務組合ティダネシア塾で講演を行ったことがある。

■山田 誠 (やまだ まこと)

- ① 1946年・香川県
- ② 法文学部経済情報学科地域計画講座教授
- ③ 経済政策論, 地域政策, 高齢者福祉
- ④ 『奄美と開発』 (共著)
『島嶼の経済社会と市町村合併—合併にゆれる奄美群島と地域構造—』 (共著)
『ドイツの補完性原理と自治体行財政』 『先進国の社会保障 ドイツ』 (古瀬徹・塩野谷祐一編), 東京大学出版会, 1999年。
『南西諸島の経済振興策と経済学アプローチ』 『地域政策科学研究』, 鹿児島大学, 2004年。
- ⑤ 奄美ミュージアム構想戦略会議顧問, 鹿児島大学全学プロジェクト「島嶼圏開発のグランドデザイン」代表, 奄美サテライト教室の開設

■先田 光演（さきだ みつのぶ）

- ① 1943年・沖永良部島和泊町
- ② 和泊町社会教育指導員（和泊町歴史民俗資料館勤務）
- ③ 郷土の民俗と歴史研究
- ④ 『沖永良部島のユタ』（海風社 1989年）
『沖永良部島の歴史』（自費出版 1990年）
『奄美の歴史とシマの民俗』（まろうど社 1999年）
- ⑤ 沖永良部郷土研究会会長

■萩野 誠（はぎの まこと）

- ① 1959年・福岡県
- ② 法文学部経済情報学科経営情報講座教授
- ③ 経営情報論
- ④ 『情報技術と差別化経済』九州大学出版会, 2003年
『鹿児島の経営者にみる成功の法則』南日本出版社,
2003年

○編集後記

■ 『公開シンポジウムの連載を終えて』

和泊町で昨年11月27日に開催した公開シンポジウムー新しい奄美世界の創出ーを、この奄美ニューズレターで、3回にわたり連載することができました。ちょうど、開催時はバレイショの植付け時など農繁期で、また市町村合併でゆれていたことなどもあり、参加者が集まるのかと事務局内部でも心配をしていました。第1回目の名瀬市のシンポに引き続き、2回目の沖永良部島和泊町でも約150名という大勢のご参加をいただいたことは望外の喜びでした。お世話いただいた沖永良部郷土研究会をはじめとする地元の関係者の方々に心より感謝しています。シンポの中身においても、奄美ゆかりの新進気鋭の若手研究者の報告は非常に面白い内容でしたし、後半のベテランの先生方からは具体的な地域振興策が提示され、有意義だったと思います。この場をお借りして、再度、和泊公開シンポにご支援いただいた方々にお礼申し上げます。(北崎浩嗣・事務局)

- シンポジウム特集号も、今回で最後となりました。表紙向かって右側の写真は、第2部・シンポジウムの様子です。本号のシンポジウムの記録にも写真を入れましたので、併せて御覧ください。左側の写真は、シンポジウム終了後に行われた、懇親会の様子です。会場では、三線の演奏や踊り等が披露され、たいへん盛り上がりました。唄や踊りが日常生活の中に浸透している、というイメージを強く受けました。

中央のユリの写真は、シンポジウムの舞台用にと、提供していただいたものです。沖永良部は花の島という名前にふさわしく、島内のいたるところに色鮮やかな花々が見受けられました。特にユリは沖永良部を代表する花と言えます。この日も素晴らしく美しい姿で、私たちの目を楽しませてくれました。(今徳)

※ 第2部シンポジウム「奄美の自立と産業戦略」の記録については、可能な限り当日の様子を再現するよう努力いたしましたが、記録音声不明瞭なため、編集委員のほうで加筆・修正を行った箇所もございます。その点は何卒ご海容ください。

研究責任者 山田 誠
奄美ニューズレター
発行 鹿児島大学

編集責任者 萩野 誠
AMAMI News Letter
発行日 2005年6月1日